



学校だより

浮舟

u k i f u n e

令和6年1月9日(火)
第36号

〒979-2157
南相馬市小高区吉名字中坪1

TEL 0244-44-2023

今年もよろしくお祈いします ～第3学期始業式校長式辞より～

新年あけましておめでとうございます。今年もどうぞよろしくお祈いします。

さて、今年のお正月は4年ぶりとなるいわゆるコロナ明けの元日を迎え、親しい人との再会や穏やかな気候とあいまって、新たな一年の始まりに期待を膨らませていた人も多かったことと思います。しかしそんな思いも16時間余りというほんのつかの間となりました。令和六年能登半島地震が発生し、元日早々から日本中が被災された方々の無事を祈る三が日を過ごしたことと思います。ここで改めて犠牲となられたお一人お一人のご冥福と、被災され避難生活やライフラインの復旧を待つ不自由な生活を強いられている方々の一日も早い復興を皆さんとともにお祈りしたいと思います。(黙祷)

本当に今私たちは予測のつかない毎日を生活していることに否応なく気づかされます。100年に一度と言われた東日本大震災を経験した私たちですが、それは決してこの先90年間は同程度の地震が起きないことを保証するものでは決してありません。明日と言わず今日にでも起こりうることとして、もちろん台風や豪雨といった災害を含め、防災や放射線等の正しい知識や技能をバージョンアップさせる必要があることを肝に銘じてほしいと思います。

一方、防災や命を守ることにについて学ぶ上で最も重要なことは「希望」だとも考えています。これは国語や数学といった学習でも同じと言えます。こんな令和6年のスタートだからこそ、皆さんには大きな希望を持ってほしいと思います。元日の朝刊にある大学生の意見が紹介されました。まもなく社会人となるこの学生の生き方や考え方が、皆さんの歩む道の先を照らしてくれることを期待して、紹介したいと思います。

『春から社会人 私の「世界」広がれ 大学生 齋藤実々(さん)』

この春、私は社会人になる。自分でお金を稼ぎ、家賃や光熱費を払う。会社の一員となり、率先して学ぶことが求められる。社会にもまれて成長したい気持ちがある一方、やっていく能力が自分にあるのかなど漠然とした不安が山ほどある。

しかし、私の人生はここからだと思う。保育園、小学校、中学校、高校、大学と、私の世界は大きくなっていった。中学校までの世界なんて本当に小さかった。高校で少し世界が広がり、大学ではものすごく広がった。コロナ禍で行けなかった1年次をやり直したいけど…。社会に出たら、大学生活でさえも小さな世界だったと思えるぐらいの経験がしたい。たくさんの人と出会い、いろんな場所に行き、知らないことに出会いたい。そして両親と飛行機に乗って旅行に行きたい。「私はこの世界で生きているのだ」と強く実感できる年にしたい。来年の今頃、私はどうしているかな。

(令和6年1月1日朝日新聞「声」より)

「一年の計は元旦にあり」です。令和6年のスタートは暗いニュースばかり目立つかもしれませんが、ネガティブな出来事を数える生き方より、やりたいこと、やり遂げるためにすべきことを常に意識する生き方がその人の人生を光り輝かせるのではないのでしょうか。

